



平成20年度

文部科学省

新たな社会的ニーズに対応した 学生支援プログラム（学生支援GP）

若者の地元定着につなげる地域活動の支援
— 地域まるごとキャンパス「地域づくり考房『ゆめ』の実践 —



学校法人松商学園

松本大学



松本大学設立のコンセプト

1. 松本大学設立の経緯と目的

松本大学は、いわゆる公私協力方式にもとづき平成14年4月に、総合経営学部総合経営学科の単学部単学科大学としてスタートしました。具体的には、大学を運営する学校法人松商学園、広域連合を含む松本市および長野県の三者が創設資金を負担することで設立されました。

そのため当初から本学は、生き活きとした地域の創造に貢献できる総合力を身につけた人材を養成することを通じて、地域に貢献することを最大の使命としています。

同時に本学の開学は、高等教育の機会が少ないと言われる長野県にあって、高等教育での就学機会を拡充する意味もありました。

平成18年4月、総合経営学部観光ホスピタリティ学科を新設し、本学を取り巻く地域の最大の特徴である観光の分野を取り込みました。

さらに平成19年4月には、あらゆる視点から地域の健康づくりに貢献することを目的に、人間健康学部(健康栄養学科・スポーツ健康学科)を増設しました。



地域の若者を受け入れ
地域社会に貢献する人材に育て地域に還す



松本大学の在学者の長野県出身状況と進路

2. 地方に位置する大学として

都市と地方の格差が問題視されるなか、若者の地元定着をはからない限り、地方の活性化は望めません。

本学は、都市部の大規模大学とは異なる発想からの、人材育成を目指しています。地域の若者を受け入れて地域の教育力で教育し、地域で活動できる人材として地域に還す、これが本学の目標です。

機能性をフルに活かした、地方に位置する小規模大学ならではの取組です。

「大学も就職も地元で」の“地元指向”を
正面から受け止めた大学づくり



『地域まるごとキャンパス』で
地域人を養成



若者の地元定着につながる学生支援
活力ある地域社会へ



地域社会を見据えた学生支援のポイント

1. 地元指向に沿った大学生活全体の支援

本学は常に「大学も就職も地元で」と考える若者の教育を第一に考えています。つまり、地元指向を真正面から受けとめる大学です。

将来、地域社会で意味ある活動をするための能力、特に地域社会を理解したうえでの総合力は、カリキュラムに編成された正課教育だけでは、なかなか身につけません。学生生活全体を通じた、地域活動の実践が必要です。

学生の地域実践を強力にサポート、これが本プログラムの学生支援です。この学生支援と正課教育が一体となっはじめて、我々の考える人材養成が可能になります。



地域運営を
担う人材

- マナーや社会常識を身につけさせる(地域実践の前提)
- 自分が地域社会の一員だという自覚を持たせる(教職員の接し方の工夫)



即戦力となる地域の担い手

学生の自主性を育む学生支援

1. 地域活動支援の拠点、「地域づくり考房『ゆめ』」

松本大学地域づくり考房『ゆめ』とは？

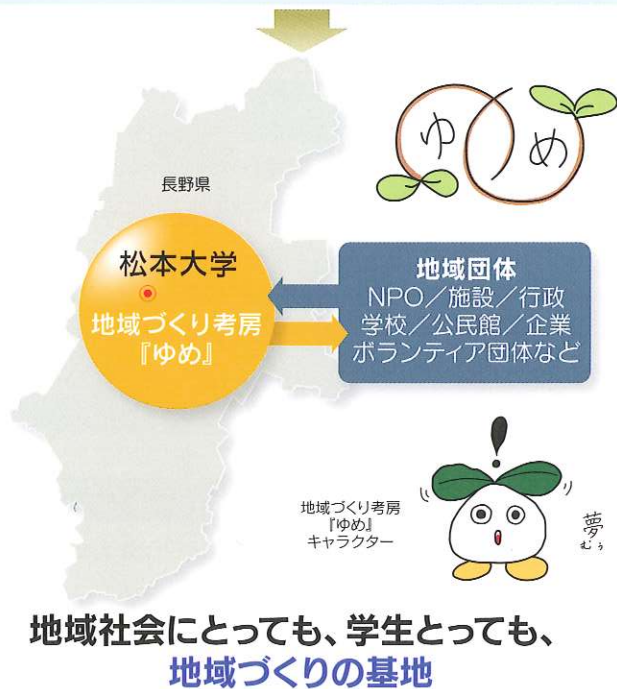
これまで本学は、学生による地域活動をあらゆる方策を用いて支援してきました。その拠点となっているのが、「地域づくり考房『ゆめ』」です。

大学キャンパス内に設けられ、学生や地域の人々が自由に出入りして交流・相談・会議を行う場所、それが『ゆめ』です。

本学の人材育成の重要な一翼を担う組織ですから、センター長は学長です。専任の職員も2名(教員と事務職員)配置されています。

『ゆめ』のコーディネートに支えられ、学生は地域活動を具体的なかたちにすることができるのです。

地域総合研究センター	
担当教員	教務委員会
学 生	各サークル
諸団体(学内)	諸団体(外部)



り始めます。なによりも、自分も地域の一員であると自覚する端緒をつかめるのです。

地産地消を目指し
地域の食材を活かすプロジェクトに挑戦

2つのプロジェクトが生んだ
商品開発の実践と企業との連携

●「松本一本ねぎ」プロジェクト



学生がデザインした
イメージキャラクター
いっぼん君

●「むかごちゃん」プロジェクト



●「Cup Don」プロジェクト

地元食材をPRする活動の中で、「Cup Don」の開発を進め、サークルKサンクスが自社コンビニでの販売を希望し、本学とサークルKサンクスとの共同開発・製品化が実現しました。



第1弾
2007年12月
単価：250円
総販売数：7767個



2007年7月から現在まで
各種メディアでの取り上げ

新聞：7誌 21回
テレビ：地方局全5局(NHKによる特集番組)
雑誌：4誌

2. 学生の自主企画による活動〈『ゆめ』の活動事例①〉

学生自身の関心・問題意識をもとに
「できること」「やりたいこと」を地域で実践

まずは、地域で「できること」「やりたいこと」を実行することが入り口になります。

学生のなかに、地域に対する意識が植え付けられ、それなりの自信も芽生えます。外から他人事のように見ていた地域の見方も変わ

3. 地域の事業への参加〈『ゆめ』の活動事例②〉

地域が企画・主催する事業を支援盛り上げにも一役

地域諸団体が企画・主催するプロジェクトに学生が参画する。これが次の段階になります。

この段階では、単に「やりたい」だけでは事が進みません。地域の住民の意見を尊重する姿勢が必要になります。

地域からのボランティア依頼要請にもとづく活動



地域で何が行われているのか地域は何に困っているのか

●ペロタクシー(人にやさしい街づくり推進協会の企画支援)

自転車タクシーを運行。「環境にやさしい」「地元の足、観光客の足として」観光振興と社会貢献活動に参画しました。



●希望の旅(地元社会福祉協議会の企画支援)

山形村社会福祉協議会と連携し、障害者の方との旅行によって、ユニバーサルデザイン環境の調査を実施しました。



4. 地域とのパートナーシップ『ゆめ』の活動事例③

地域からの依頼・要請をもとに
共同でプロジェクトを立ち上げ、実施

地域と共同で、あるいは地域のグループと協力してプロジェクトを立ち上げ、その実行にも責任をもってあたります。それまでの地域実践の経験が活きる、活動の集大成ともいえます。責任感なくしては成り立たない活動です。

地域の一員として自覚と責任を持って参加

●松本大学キッズスポーツスクール

地域の子どもたちに「サッカー」を通して、運動の楽しさ、友達づくりを教える目的で開催。参加者(保護者)から定期開催を求められ、地元のスポーツスクールとして人気を集めています。



●古い電車で新しい語り

松本電鉄新村駅や使用済電車を活かして、地域づくりを行う。松本電鉄上高地線の活性化などを図っています。



5. 『ゆめ』独自の企画(『ゆめ』の活動事例④)

『ゆめ』運営委員会独自の事業、
『ゆめ』運営委員会が選定する助成事業

「地域づくり学生チャレンジ奨励制度」の導入

学生個人またはグループによる活動に対し、いくつかの条件を満たしたプロジェクトを審査し、最高10万円までの助成金を支援する。

1件あたり最高
10万円
を助成

- ① プロジェクトの予算化、経営感覚を養う
- ② 責任感とリーダーシップ、人間力のアップ
- ③ モチベーションの向上
- ④ 新しいアイデアと発想の展開

●エコカープロジェクト

2年連続して、助成金を獲得。1年目は5万円、2年目は10万円。エコカーによる日本一周を実現した。



社会的ニーズに対応した新たな取組

1. レベル・ステージアップに向けた支援

『ゆめ』の学生スタッフとして

学生が『ゆめ』の運営スタッフとして活動

『ゆめ』を拠点とした地域活動で経験を積んだ学生に次のステップを用意。『ゆめ』で行われる活動にスタッフとして関わることで、コーディネーター役にチャレンジさせる取り組み。

スタッフとして 地域活動をマネジメント

- ① さらなる即戦力の強化
- ② 主体的・自立的人材の育成
- ③ リーダーの資質を育成

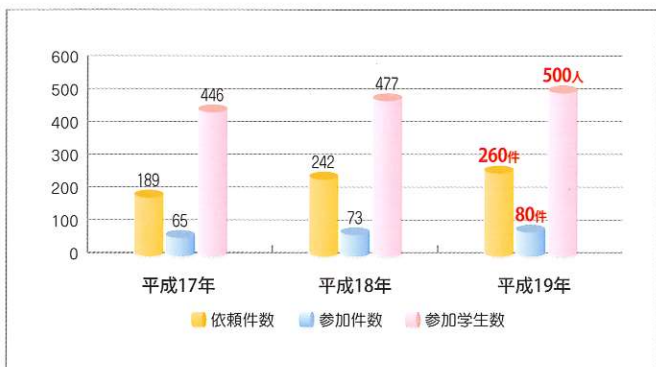
地域活動に『ゆめ』スタッフとしてマネジメント

〈マネジメント部門〉

専任教員(1名) 専任職員(1名) 学生スタッフ(4名)

レベル・アップを期待

プロジェクトリーダー(9名)



依頼件数と参加学生数

2. 地域づくりの実践、新たなチャレンジ

新たな学生支援の拠点、『ゆめ』分室(仮称)の設定

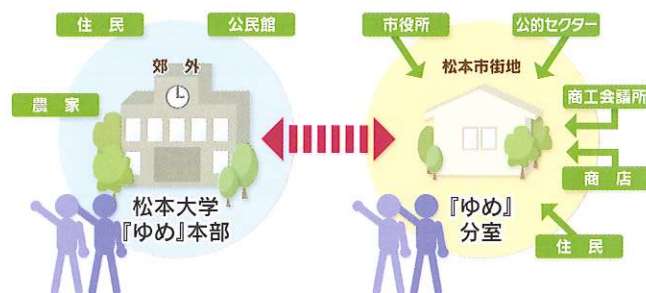
学生支援のための新たな拠点として、松本駅前に『ゆめ』分室を設けます。行政サイドや公的セクターとの連絡・交流を密にすることができます。

中心市街地の活性化など、これまでとはひと味違った活動に取り組むチャンスが生まれます。

地域リーダーとしての資質を伸ばし、なによりも責任感を培うための格好の場となります。

『ゆめ』分室を設置

地域活動の質の変化



対象との密な連絡環境と
これからのまちづくりが課題の中心市街地



中心市街地活性化

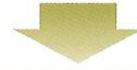
3. 新たな取組の独自性

学生スタッフを配置するという工夫

『ゆめ』の本体・分室ともに学生スタッフを配置し、学生自身にとっても鍛錬の場となり、地域住民や他の学生が利用しやすい雰囲気づくりにも寄与するよう工夫していきます。しかも、それらの活動全体を従来からの『ゆめ』スタッフが教育的配慮を持って支援する体制をとることから、極めて独自性の強い取組となるでしょう。



- 『ゆめ』分室にも、新たに専任スタッフ配置
- 『ゆめ』の本部・分室ともに、専任スタッフと学生スタッフが活動



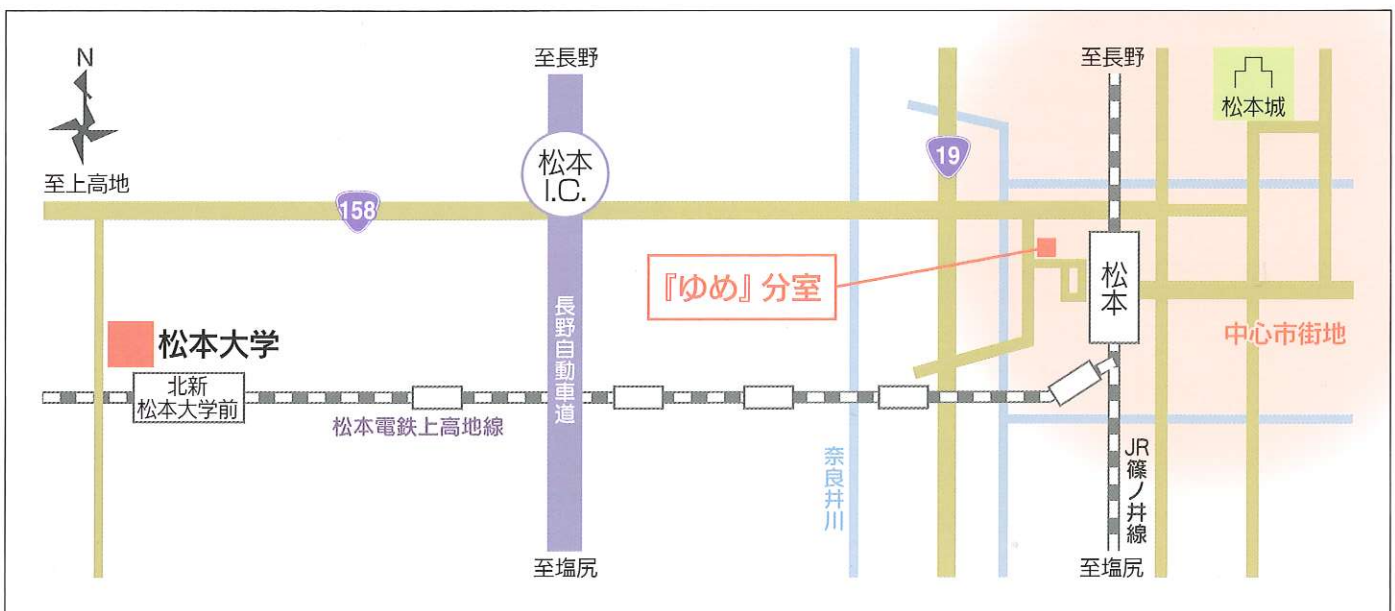
- 学生の主体性・責任感を培う
- 学生支援の新ステージに対応した『ゆめ』機能の充実

■学生スタッフの主な仕事

- ① 地域と学生をつなぐ窓口
- ② 学生による活動の取りまとめ
- ③ 『ゆめ』広報誌制作と情報発信ツールの開発
- ④ 大学内調整、外部との連携

■地域実践プログラムの計画

- ① マナー講座 etc.
- ② キャリアデザイン支援
- ③ 実践活動の支援



Matsumoto Univ.
2008

松本大学は、文部科学省が選定する 平成20年度 「新たな社会的ニーズに対応した 学生支援プログラム(学生支援GP)」 に採択されました。

テーマ「若者の地元定着につなげる地域活動の支援」

文部科学省では、国公立大学を対象に、教育の質的向上や教育改革への高度かつ特色ある取り組みを、毎年公募・選定しています。

「優れた取り組み」の公募では「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」,あるいは「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」等のカテゴリーが設定されています。このうち松本大学は、学生支援GPに『若者の地元定着につなげる地域活動の支援』というタイトルで申請しました。

地方の小規模大学として本学は、地元の若者を教育して地元へ還元することを旨とした教育と学生支援を実施してきました。「地域」一般ではなく、地元である長野県あるいは松本市で活躍できる人材を養成するための学生支援を目指し、我々はそのための専門組織「地域づくり考房『ゆめ』」を拠点に学生の地域実践を強力に支援しています。

地域貢献度が高いと評価された従来の取組の成果を踏まえ、地域活動の中でも手薄だった分野を開拓することで、責任感のある即戦力に近づくことができるよう、学生を支援するための取組です。

この取組は、地域づくり考房『ゆめ』の分室を中心市街地に設け、地域実践を積んだ学生に、そのスタッフとして活動する機会を与えることを大きな特長としています。公共機関と本格的に協働するための最前線基地が分室であり、学生スタッフの配置は、学生自らが支援する側に立つことで責任感を醸成することを狙いとしています。こうした意欲的かつ総合的な実践が高く評価されました。

新たな社会的ニーズに対応した 学生支援プログラムとは

GP=Good Practice/優れた取組

「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」は、学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、各大学・短期大学・高等専門学校における、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取組を含む優れたプログラムを選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機能の充実を図るものです。

【GPのキーワード】

① 国公私を通じた競争的環境

教育改革の参考となる「優れた取組」を見つけ出すうえで、国立・公立・私立といった枠にとらわれることなく広く公募し、申請のあった取組の中から特に優れた取組を選ぶこととしています。これは各大学等が積極的に教育改革に取り組むことのできる環境、つまり「競争的環境」を整えることで教育改革への動機づけ、インセンティブを与え、互いに切磋琢磨することを目的としています。

② 第三者による公正な審査

「優れた取組」を適正に選定するために「公正な審査」を担保する必要があります。そのため、有識者や専門家等から構成される委員会によって、書面審査や面接審査などにより、公表された審査基準に基づいて、ペーパーレフェリーの専門的見地からの意見も踏まえ公正な第三者評価による審査を行います。そして、選定した取組も選定しなかった取組も、ともにその理由を付して大学等に連絡しています。

③ 積極的な社会への情報提供

我が国の大学教育改革を推進するという観点から、「優れた取組」を選定し財政支援するだけでなく、選定された「優れた取組」を全ての大学等の共有の財産として、多くの大学等が自らの教育改革をすすめる議論に活用してもらうため、「優れた取組」に関する情報を多くの大学等に積極的に提供することが不可欠で、とても重要な意味を持っています。

文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>

大学・短大ワンキャンパス

松本大学

〈総合経営学部〉

- 総合経営学科
- 観光ホスピタリティ学科

〈人間健康学部〉

- 健康栄養学科
- スポーツ健康学科

松本大学 松商短期大学部

- 商学科
- 経営情報学科



学校法人松商学園

松本大学

〈総合経営学部〉
 〈人間健康学部〉

〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 TEL.0263(48)7200 FAX.0263(48)7290
 URL <http://www.matsumoto-u.ac.jp> e-mail www@matsumoto-u.ac.jp